

令和 n 年度 卒業論文

タイトル

が長い時

電気通信大学 情報理工学域 III 類 なんとかプログラム

0000000 電通 花子

指導教員 電通 太郎 教授

提出日 令和 n 年 1 月 31 日

目次

第 1 章	序論	1
1.1	目的	1
1.2	本論文の構成	1
第 2 章	原理	2
2.1	原理 1	2
2.1.1	原理 1-1	2
2.2	原理 2	2
第 3 章	実験	3
3.1	実験器具及び実験環境	3
3.1.1	実験器具	3
3.2	実験 1	3
第 4 章	結論	5
謝辞		7
付録		8
.1	MATLAB スクリプト	8

第 1 章 序論

1.1 目的

本研究の目的は云々

1.2 本論文の構成

本論文は全 4 章で構成されている。第 2 章で原理について述べる。第 3 章で実験について述べる。第 4 章では本論文のまとめを述べる。

第 2 章 原理

2.1 原理 1

これは式 (2.1) に従う。

$$E = mc^2 \quad (2.1)$$

2.1.1 原理 1-1

この原理はこう [1] です。

$$\text{sinc } x \quad (2.2)$$

2.2 原理 2

この原理はこうです。

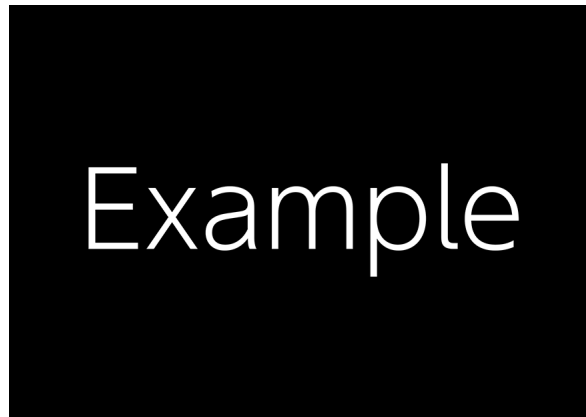


図 2.1: イメージ

第 3 章 実験

3.1 実験器具及び実験環境

3.1.1 実験器具

- 実験
- 器具
- 一覧

3.2 実験 1

付録.1 に示すソースコード 1 を用いて実験した。結果を表 3.1 に示す。

表 3.1

A	B
0.0	0.0
0.0	0.0

また図 3.1 に示す。

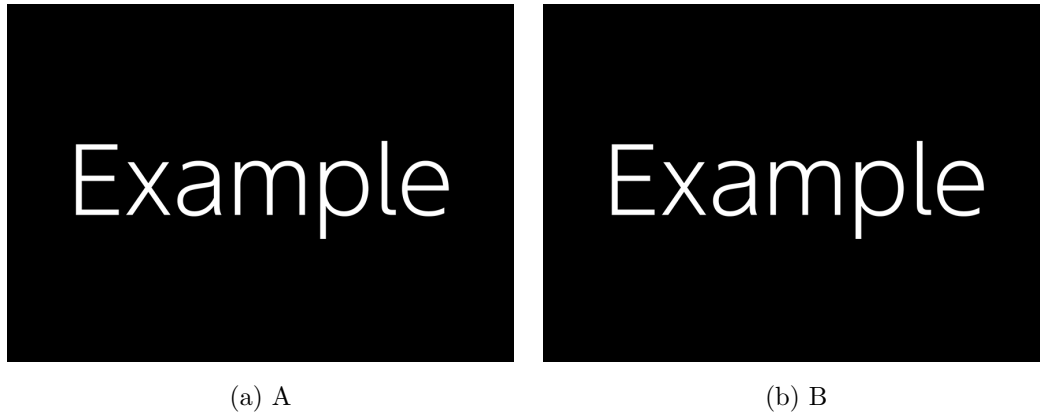


図 3.1: イメージ

図 3.1a に対して、図 3.1b は云々。

第 4 章 結論

という結論となった。

今後の課題として、これが挙げられる。

参考文献

[1]電通 太郎, “タイトル,” 卒業論文, 電気通信大学, 2025.

[2]T. Dentsu, “Title,” *Proceedings of the GAKKAI*, **015** (11), pp. 20–30, 1192.

謝辞

本研究を行うにあたって、1 年間指導してくださった電通太郎教授に深く感謝いたします。また研究室の活動で大変お世話になった方々に心から感謝いたします。

付録

.1 MATLAB スクリプト

```
1 a = 1;
```

ソースコード 1: MATLAB スクリプト